HPはこちら

東日本ユニオン NEWS

ＪＲ東日本労働組合
発行者　情報宣伝部
2025 年７月 10 日 №912

第１４回定期大会を開催

この間の取り組みの成果を全体で確認し
高めてきた組織力で要求と組織拡大を実現する運動方針を確立！

東日本ユニオンは７月９日、東京都「田町交通ビル」において「第 14 回定期大会」を開催しました。

2025 春闘や 2025 年度夏季手当・追加支給の取り組みをはじめとした「労働条件・労働環境改善の取り組み」や「組織強化・拡大の取り組み」など、一年間の運動の総括を行い、安全の確立、ＪＲ労働者の共闘・連帯、要求と組織拡大の実現をめざして取り組むことを柱とした運動方針を満場一致で確立しました。

質疑では、７名の代議員から発言がありました。主に 2025 春闘の取り組みを通じた成果が語られ、安全問題や業務諸課題に対する職場からの取り組みのほか、自らが労働組合運動に触れ、東日本ユニオンに加入し、運動を職場から広げてきたことなど、各代議員の力強い発言によって運動方針が補強されました。

提起した「協約・協定の締結」「2025 年度運動方針（案）」「2025 年度予算（案）」など、すべての議案を満場一致で採択しました。

新たな中央執行体制を確立し、東日本ユニオン全組合員が一丸となって組織拡大と要求を実現させるスタートを切りました。

東日本ユニオンの未来のために、
JR労働者の未来のために、組織拡大の実現をめざし、
より強固で魅力ある組織を全組合員でつくりだそう！

大会宣言 ~~（案）~~

本日、私たちは東京都「田町交通ビル」において「第 14 回定期大会」を開催した。

この間の基本給改訂や夏季手当の取り組みでつくりだしてきた成果と組織力をもって「新たな会社組織」「新たな人事・賃金制度」に全組合員で向き合っていくと共に、さらなる組織拡大の実現に向けて取り組みを進めていくことを柱とした運動方針を満場一致で確認した。

現在、ＪＲ東日本の企業活動に警鐘が鳴らされている。社会を支える重要な基盤であり、経営の根幹とも言える新幹線で２度の列車分離、パンタグラフの破損が発生した。さらにはＥ８系車両故障など事象が後を絶たない。グループ会社の人件費水増し請求による不祥事も発覚した。全社員でつくりだしてきた信頼が崩れ去ろうとしている。現場ではお客さま対応に追われている。「みどりの窓口」の閉鎖による影響など「変革 2027」の実現に向けた会社諸施策による課題も露呈している。私たち東日本ユニオンは安全を絶対的な価値基軸として、職場から企業活動をチェックし、安全文化を醸成していく。

2025 春闘は「ＪＲ東日本の基本給は総じて低い」を東日本ユニオンの見解とした。組合員による対話行動を通じてＪＲ労働者の本音が顕在化し、会社発足以来、過去最高額のベースアップを勝ち取った。しかし、経営側による一方的な新賃金と夏季手当の同時議論によって、夏季手当は「2.8 ヶ月」に抑え込まれた。私たちは「ベースアップと夏季手当の同時回答」「夏季手当 2.8 ヶ月回答」「格差ベア」の３つに対して「納得できない」というＪＲ労働者の本音を結集させ、0.7 ヶ月分の追加支給を求めてたたかった。経営側は「2.8 ヶ月支給は妥当である」「追加支給する考えはない」「同時議論は金額の多い少ないではなく、社員は生活設計が立てられる」「職制によって処遇していくことは一定の合理性がある」と回答し、社員の「本音」とかけ離れた姿勢を崩すことはできなかった。要求を実現することはできなかったが、全組合員でＪＲ労働者が抱えている不安や不満、本音を寄せてもらえる労働組合を形成してきたことに自信を持ち、年末手当において取り戻すべく、社員が納得のできる要求の満額回答を実現していこうではないか。

経営側は５月７日に「組織の見直し」と「人事・賃金制度の見直し」を含む「ＪＲ東日本グループのさらなる飛躍に向けた新たな組織と働き方について」を提案してきた。職場では見通せない未来に対する不安や疑問が渦巻いている。私たちはこの大きな変化と向き合い、これまでの成果の上に立ってすべてのＪＲ労働者と共に会社と私たちの未来を描き、定年まで安全で安心して、希望をもって働くことができる労働条件と労働環境をつくりだしていこう！

東日本ユニオンの未来のために、ＪＲ労働者の未来のために、組織拡大の実現をめざし、より強固で魅力ある組織を全組合員でつくりだそう。

以上、宣言する。

2025 年 7 月 9 日

ＪＲ東日本労働組合

第 14 回定期大会